

2016・9・17

第七回

「朗読を楽しむ」好評裏に終了

― 反省点は「後の課題」 ―



芥川龍之介の名作『トロッコ』を3人で朗読
高橋さん、伊藤さん、和上さん。言葉を大切に
して正確で格調のある朗読が印象的でした。

平成二十八年
九月十七日
(土) 午後、
大田市民会館
中ホールで第
七回「朗読を
楽しむ」を開
催しました。
体育祭や文
化行事が多い
時期でしたし、

PRも不十分で、総勢五十人ばかり
(朗読者も平等
に参加費負担)の参加者でしたが、
内容のある充実
した二時間でした。

今回も日本の名作、郷土の詩人、創作という三部
構成で行いました。郷土大田市の作家・詩人として
は、読売文学賞を受賞された別所真紀子さん、この
春に詩集を出版された高橋留理子さん、仁摩在住の
小林俊二さんの詩を朗読しました。

先日、ある中学校の先生に出会いました。その先
生は今回の「朗読を楽しむ」に初めて来られたそう
です。「大田にこんな舞台発表があるとは驚きまし

た。とても感動したので、すぐ朗読された詩集を購
入しました」と言われました。

うれしい話でした。こんな人もおられるのですね。
第一回から一貫しているのは、「文学の力」「言葉の
力」を伝えることです。それを受け止めていただい
たことはうれしいことです。

詩集などはほとんど読まれません。しかし声で表
現することによって、多くの人に聞いていただけま
す。いい詩には心を感動させる力があります。

十月中旬に石見銀山テレビもコンパクトに編集し
て放映したので、あちこちで声を掛けられました。
市民会館から銀テレへ撮影依頼をされたのですが、
事前事後の周到な準備や処理にも配慮する必要も
改めて思いました。

最大の反省はPR不足です。ノルマによる負担を
無くするために前売り券や整理券を発行していませ
んが、「一人が十人くらいは連れて来るくらいいな
いとだめよ」と



小林俊二詩集から朗読する竹下さんと和上さ
ん。詩人の思いがしっかり伝わりました。

厳しい声もカミ
サマから聞こえ
ました。いつも
のように大きな
課題です。忙し
いけど「更に新
しい汗」を流さ
ないといけません
ね。(写真は銀
山テレビより撮影)

全アンケートを紹介します

お客様にいただいたアンケートを報告します。ど
んな感想にも参考になることがたくさんあります。
今後に生かしましょう。

① 今回の公演について全体的な感想 があればお書き下さい。

- ・とても良かった。こういうことをして
られる方がおられたとは知らなかった。
- ・それぞれの魅力いっぱい3部構成、
しい発見がたくさんありました。ぜい
くな時間をありがとうございます。
- ・こういう会を続けることが大切です。
田市民の底力を感じます。松江や出雲
も多様な活動がもつとできると思うの
ですが、
- ・詩や古典の名作をもっと読んでみたいと
刺激を受けました。
- ・背景が非常に良かったです。朗読はそれ
ぞれ立派だと思います
- ・よかったです。とても聞きやすく感動し
ました。
- ・臨場感の漂う語り、展開で良かったです
- ・難しかったけど、とてもよかったです。
- ・初めて朗読公演見に行きました。次回も

見に行きたいですね。

・肉声により聞くことは、生のものに触れる感じがして、とても楽しめました。又地元にも素晴らしい詩人の方がいらつしやるということを知り、感動しました。

・構成がとてもよかったです。いろんな分野の作品があった。郷土の詩人を取り上げ紹介されたことがとてもよかったです。

・素敵な取り組みだと思います。もつと多くの方にも来ていただきたいですね。休憩も少しあるとありがたいです。

・とても判りやすく、がんばっておられます。

② 次の一部 ～ 三部で特に感想や

コメントがあればお書きください。

第I部 日本の名作と古典（「トロッコ」

宮沢賢治の詩、「敦盛最期」

- ・「雨にも負けず」 戦争中、国民学校の4年か5年の時「木村富士男さん」の指で覚えた。懐かしく思い出しました。そして浜田の陸争病院に慰問に行った。
- ・ベテラン3名の朗読、聞きごたえがあり

ました。

・「トロッコ」はなつかしく聞きました。現代の子どもたちは、号泣することもないのうか…。

・男声らしさ、もつともつと必要。

・文字ではなくことばだったためか、別の感じ方がしました。

・今日来られたことが、とても嬉しく思います。

・自分でも読んでみたいと思いました。

・新鮮な気持ちで聞きました。

・古典をじっくり味わうことができました。

・「トロッコ」声のトーンが心地よく、とても楽しめました。「宮沢賢治・敦盛の最期」よく知っているお話だったのでその世界へ入り込んで、とても懐かしく楽しみました

2部 郷土の詩人の詩集より

(別所真紀子、小林俊二、高橋留理子



長編詩「扶余紀行—女人哀歌—」(高橋留理子詩集『たまどめ』より)朗読は劇研「空」の田中さん、吉川さん、若狭さん。映像は宮廷官女3000人が白馬江へ身を投げたという落花岩。660年日本と百濟連合軍は新羅・唐の連合軍に白村江で敗北した。詩はそれを背景にした力作。

・改めて是非読んでみたいと思った。

・大田にこのような方々がおられることを恥ずかしながら初めて知りました。

・詩の言葉がどう伝わるのか。言葉の美しさ、力を信じるために朗読を続けることが必要。

・大田の詩人を紹介する機会を持て、嬉しく思います。

・朗読ではなく、朗詠のように。

・いずれも心に響く詩でした。詩集を手にとつてみようと思います。

・知らなかったなので、図書館で読んでみたいと思います。

・戦争によるいたみを、こんなに美しいお言葉で読んで下さり、ありがとうございます。

・耳で朗読を十分、それ以上に楽しませていただきました。

・このような方々が郷土にいらつしやることを知りませんでした。今日この回に参加できてよかったです。

・新鮮な感動を覚えました。

・このように伝えていただくことの大切さを知りました。ありがとうございました。

※別所さんから、「皆本を読まなくなった時代に様々な啓発活動に敬服します」と手紙にありました。『俳句』八月号で別所真紀子特集が組まれています。

第3部 ふるさとの創作民話 朗読劇

「出口がない」(作・洲浜昌三)



創作民話朗読劇『出口がない家』

左から 堤さん、若狭さん、松本さん、吉川さん、山本さん、田中さん。 絵は松本日菜子さん、PC操作洲浜さん。楽しいユーモアに富んだ創作民話。不十分なところを修正補強してもっと楽しい朗読劇にするつもりです。11 / 13 久利町文化祭、11 / 26 浜田市白砂公会館でも上演予定

- ・とてもよかったですと思いました。これからもがんばって下さい。
- ・劇研「空」の新しい挑戦に改めて感銘を受えました。
- ・ユーモアをもう少し入れてほしい気がします。
- ・声を大きく。音斗朗々と、男声必要
- ・大田の言葉で楽しみました。
- ・とてもよかったです。引き込まれました
- ・朗読劇、状況を思い浮かべながら聞いて楽しかったです。
- ・全体的に良かったのですが、最後の

③ 今後取り上げてほしい作品がありますか

- ・終わり方があつという間で、しつぽ切れのように思いました。
- ・皆さんの技術でとても楽しめましたよかったです。
- ・HISのある作品で楽しめました。
- ・とても面白い話でした。

- ・「小泉八雲」の作品など。樋口一葉のものなど。
- ・「しまねの風物詩」などから、郷土の詩を取り上げて欲しい。
- ・平家物語の冒頭。白骨の御文章(蓮如) 妙好人 浅原才一の詩。
- ・大田町の山城 杉山城を題材にお願いします。
- ・町に伝わった話。

④ 公演以外のご自由にお書きください

- ・ふる里の歴史を掘り起こして作品にしたいだけだと思います。
- ・今年も楽しませていただきました。毎年楽しみにしています。もう少したく

- ・さんの方が参加してほしいものです。
- ・朗唱、朗詠、映写、いずれも好評。身振りも重要。
- ・次回も是非参加したく思います。よろしくお願いします。
- ・これからも続けていってほしいと思います。



高橋留理子さん自身にも舞台上で自作詩を朗読していただきました。小林俊二さんも参加されました。和上さんが朗読後に紹介されました。

ご協力ありがとうございました。

今回は高野久代さんをお願いして司会や紹介をしたいただきました。大田市教育委員会、大田市民文化協会、島根県演劇ネット、島根県詩人連合の後援をいただきました。市民会館スタッフにも照明や舞台など絶大な協力をいただきました。朗読で出演していただいた方々には心よりお礼を申し上げます。遠くは安来、出雲。田所から娘さんの車に乗って車椅子で来られた佐田光子さん。佐田さんや中村隆實さんにはご厚志をいただきました。皆様にお礼を申し上げます。これは会報一九号の一部です。(洲浜)